



2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2022年11月11日

上場会社名 株式会社アルファポリス

上場取引所 東

コード番号 9467 URL <https://www.alphapolis.co.jp/company/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梶本 雄介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理本部本部長 (氏名) 大久保 明道

TEL 03-6277-0123

四半期報告書提出予定日 2022年11月11日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	4,389	2.4	1,117	17.2	1,122	17.2	690	16.3
2022年3月期第2四半期	4,499	18.9	953	8.6	957	8.6	593	10.0

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	71.24	
2022年3月期第2四半期	61.28	

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	11,279	9,469	84.0
2022年3月期	10,501	8,779	83.6

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 9,469百万円 2022年3月期 8,779百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		0.00	0.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,500	4.5	2,400	9.4	2,400	9.0	1,488	7.1	153.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	9,687,400 株	2022年3月期	9,687,400 株
期末自己株式数	2023年3月期2Q	270 株	2022年3月期	270 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	9,687,130 株	2022年3月期2Q	9,687,177 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間(2022年4月1日から2022年9月30日まで)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症における行動制限の緩和等により経済社会活動の正常化が進む中で持ち直しの動きがみられたものの、ウクライナ情勢に起因する原材料価格の高騰や円安の進行に伴う物価上昇等が家計や企業に与える影響も懸念され、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社が属する出版業界におきましては、2022年上半年期(1月から6月まで)の紙と電子を合算した出版市場(推定販売金額)は、前年同期比でマイナスとなりました。公益社団法人全国出版協会・出版科学研究所によると、2022年上半年期の紙と電子出版を合算した推定販売金額は前年同期比3.5%減の8,334億円となり、その内訳は、紙の出版物については同7.5%減の5,961億円、電子出版については同8.5%増の2,373億円と、紙の市場が前年同期を下回った一方で、電子出版市場は堅調に拡大を続けております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いものが望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新しいエンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業に取り組んでまいりました。

当第2四半期累計期間における書籍のジャンル別の概況は以下の通りであります。

① ライトノベル

当第2四半期累計期間の刊行点数は前年同期を大きく上回る123点(前年同期比25点増)となりました。各書籍の売れ行きにつきましては、TVアニメ第2期制作中の『月が導く異世界道中』や当社投稿サイト発の『異世界ゆるり紀行』等の大型人気シリーズの続刊が引き続き好調に推移いたしました。また、電子書籍につきましては、親和性の高い女性向け小説を中心に好調な売れ行きを示し、当ジャンルの売上を牽引いたしました。

結果、当第2四半期累計期間の売上高は想定通りに進捗しましたが、前年同期における『月が導く異世界道中』のアニメ放送に伴う原作小説売上の大幅伸長の反動減から前年同期を下回る金額で着地いたしました。

② 漫画

当第2四半期累計期間の刊行点数は前年同期を上回る71点(前年同期比2点増)となりました。各書籍の売れ行きにつきましては、『最後にひとつだけお願いしてもよろしいでしょうか』や『Re:Monster』等のライトノベルヒット作をコミカライズした人気シリーズの続刊が堅調に推移いたしました。また、当ジャンルと親和性が非常に高い電子書籍販売につきましても、電子書籍販売の体制強化や各電子ストアにおける拡販施策の推進等により、引き続き好調に推移いたしました。

結果、当第2四半期累計期間の売上高は想定通りに進捗しましたが、前年同期における『月が導く異世界道中』のアニメ放送に伴う原作漫画売上の大幅伸長の反動減から前年同期を下回る金額で着地いたしました。

③ 文庫

当第2四半期累計期間の刊行点数は前年同期を上回る78点(前年同期比7点増)となりました。キャラ文芸ジャンルから『後宮の棘』や『あやかし鬼嫁婚姻譚』の第2巻等、複数作品を刊行し、同ジャンルの強化に努めてまいりました。また、近年厳しい状況にある紙の書籍市場の中でも堅調な成長を続けている児童書市場に本格的に参入するため、2022年8月に児童文庫レーベルとなる「アルファポリスきずな文庫」を創刊し、第1弾として3作品を同時に刊行する等、新たな市場の開拓を図ってまいりました。

結果、当第2四半期累計期間の売上高は前年同期を上回る金額で着地いたしました。

④ その他

当第2四半期累計期間の刊行点数は3点(前年同期比2点減)となりました。シリーズ累計130万部を突破した大型人気シリーズ『居酒屋ぼったくり』の番外編第3巻を刊行し、同タイトルが売上を大きく牽引いたしました。

結果、当第2四半期累計期間の売上高は前年同期を上回る金額で着地いたしました。

以上の活動の結果、当第2四半期累計期間の売上高は4,389,243千円(前年同期比2.4%減)となりました。

利益面におきましては、主に前期7月から9月に実施したテレビCM放映をはじめとした当社サービスの認知度向上に向けた大型成長投資により一時的に増加した販売費及び一般管理費が減少したことから、当第2四半期累計期間の営業利益は1,117,969千円(前年同期比17.2%増)、経常利益は1,122,546千円(同17.2%増)、四半期純利益は690,138千円(同16.3%増)となりました。

(注) シリーズ累計部数：同作品の続編に加え、同作品の漫画及び文庫を含み、部数は電子書籍販売数を含む。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末に比べ796,093千円増加し、10,936,473千円となりました。これは主に、現金及び預金が増加（前事業年度末比697,221千円増）したこと並びに仕掛品が増加（同56,435千円増）したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ18,321千円減少し、342,892千円となりました。これは主に、投資その他の資産が減少（同8,986千円減）したこと及び無形固定資産が減少（同6,363千円減）したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ98,297千円増加し、1,799,584千円となりました。これは主に、未払法人税等の増加（前事業年度末比84,212千円増）によるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ10,663千円減少し、10,195千円となりました。これは主に、長期借入金の減少（同10,004千円減）によるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ690,138千円増加し、9,469,586千円となりました。これは全て、利益剰余金の増加によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における、現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末に比べ697,221千円増加し、7,799,816千円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは713,104千円の収入（前年同期は271,580千円の収入）となりました。主な増加要因は、税引前四半期純利益の計上によるものであります。また、主な減少要因は、法人税等の支払によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは5,190千円の支出（前年同期は41,847千円の支出）となりました。減少要因は、有形固定資産の取得及び出資金の払込によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは10,693千円の支出（前年同期は10,809千円の支出）となりました。主な減少要因は、長期借入金の返済によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想につきましては、2022年5月13日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,102,594	7,799,816
売掛金	2,637,541	2,652,569
製品	192,406	217,980
仕掛品	155,389	211,824
その他	52,447	54,282
流動資産合計	10,140,379	10,936,473
固定資産		
有形固定資産	34,333	31,362
無形固定資産	46,569	40,206
投資その他の資産	280,311	271,324
固定資産合計	361,214	342,892
資産合計	10,501,594	11,279,366
負債の部		
流動負債		
買掛金	52,096	48,461
1年内返済予定の長期借入金	20,088	20,048
未払金	600,211	621,870
未払法人税等	364,757	448,969
賞与引当金	50,593	46,058
投稿インセンティブ引当金	28,354	33,708
返金負債	427,174	422,804
その他	158,011	157,663
流動負債合計	1,701,287	1,799,584
固定負債		
長期借入金	17,164	7,160
その他	3,694	3,035
固定負債合計	20,858	10,195
負債合計	1,722,146	1,809,779
純資産の部		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金	853,824	853,824
利益剰余金	7,062,436	7,752,574
自己株式	△637	△637
株主資本合計	8,779,448	9,469,586
純資産合計	8,779,448	9,469,586
負債純資産合計	10,501,594	11,279,366

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	4,499,318	4,389,243
売上原価	1,009,694	1,055,573
売上総利益	3,489,624	3,333,669
販売費及び一般管理費	2,535,938	2,215,700
営業利益	953,685	1,117,969
営業外収益		
受取利息	25	30
前払式支払手段失効益	4,275	3,733
その他	—	895
営業外収益合計	4,301	4,660
営業外費用		
支払利息	124	83
その他	410	—
営業外費用合計	534	83
経常利益	957,451	1,122,546
特別損失		
関係会社株式評価損	—	9,419
特別損失合計	—	9,419
税引前四半期純利益	957,451	1,113,126
法人税等	363,831	422,988
四半期純利益	593,620	690,138

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	957,451	1,113,126
減価償却費	11,275	13,558
関係会社株式評価損	—	9,419
賞与引当金の増減額(△は減少)	4,223	△4,535
返金負債の増減額(△は減少)	△5,295	△4,370
投稿インセンティブ引当金の増減額(△は減少)	4,483	5,353
受取利息及び受取配当金	△25	△30
支払利息	124	83
売上債権の増減額(△は増加)	△290,297	△15,027
棚卸資産の増減額(△は増加)	△16,153	△82,009
仕入債務の増減額(△は減少)	△5,430	△3,634
未払金の増減額(△は減少)	365,320	22,106
その他	△119,152	△171
小計	906,524	1,053,869
利息及び配当金の受取額	25	30
利息の支払額	△124	△83
法人税等の支払額	△634,845	△340,712
営業活動によるキャッシュ・フロー	271,580	713,104
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,328	△1,440
無形固定資産の取得による支出	△27,953	—
出資金の払込による支出	△12,565	△3,750
投資活動によるキャッシュ・フロー	△41,847	△5,190
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△10,044	△10,044
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△639	△649
自己株式の取得による支出	△126	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△10,809	△10,693
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	218,923	697,221
現金及び現金同等物の期首残高	6,088,469	7,102,594
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,307,392	7,799,816

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

当社は、出版事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。